

都部谷津における特定外来生物（水生植物）についての ミニ勉強会

日時：2023年1月6日 13:30～16:10

会場：手賀沼親水広場水の館研修室

参加者：農研機構 嶺田、千葉県生物学会 浅間、千葉県立中央博物館 林、我孫子市岡発戸・都部谷津ミュージアムの会、岡発戸・都部の谷津を愛する会、千葉県水質保全課、白井市役所、我孫子市役所 手賀沼課2名、流域フォーラム実行委員4名、美手連4名 計17名

農研機構の嶺田さんを中心に「市民団体がこれからできること」について意見交換し、ナガエツルノゲイトウの農薬による防除についての最新の研究結果をご説明いただいた。概要は以下の通り。

都部谷津のナガエツルノゲイトウについて

- ・都部の谷津は侵入が点から面になっておりすでに定着期。あと数年すると手に負えなくなるが、今はまだ減らすことが可能。
- ・水田でまだナガエが入っていないところを守ることが最優先。順番を考えることが必要。
- ・取り除くなら根が動く前、すなわち水が入る前がいい。灌漑期は適していない。
- ・根が1メートルくらい伸びていることもあるので、可能な限り根や地下茎まで取り除く。

給水栓の網掛け

- ・網掛けは有効。かけられない形の給水栓もあるので、給水栓の改造が必要。
- ・「網をかけて終わり」ではない。ごみの処理の問題がある。目が細かいと目詰まりするので、こまめに取り換える必要がある。

バーナーによる焼却処理

- ・刈り取って切れ端をまき散らすよりはバーナーで焼き切るほうがよい。炎が地下には行かないので、1～2回では不十分。何回もやると有効と思う。

遮光シート実験

- ・芽吹き時期(5～6月)に 遮光実験を行うのがよい。ナガエの生息範囲の1mくらい外側まで覆う。
- ・一度地表面を刈り取ってきれいにしてから遮光シートをかけると、さらに良い。

除草剤を使った防除 ミニ講演会

- ・なぜナガエが田に入ると厄介か。①よく効く薬がない。除草してもナガエだけ残る。②根を深く、耕盤層までおろす。③畦畔、農道にも侵入・定着する。定着すると茎が太く、葉が小さくなる。④畦畔からツルを伸ばして田に入る。初期侵入事例は水口近くに多い。
- ・刈り払い機を使うと、ナガエの切れ端が散らばり、余計広がってしまう。刈り払い管理に替わる管理技術として除草剤を使った防除を検討した。
- ・稲刈り後、秋起こしの前にグリホサートを撒き、2週間おいてから秋起こし。これが一番効果ある。
- ・グリホサートは25倍希釈液を散布した。許容されている最高濃度。製品には添加剤（展着剤）が加えられ、効きやすくなっている。原液を散布しても根の方まで下りてゆかず、直接散布されたところだけが枯れるので、適正希釈が大切である。
- ・①まだ侵入していない場所には入れない。②初期・未蔓延時は薬を使う。③蔓延したら外に出さず、低密度管理に切り替える。これがトータル何十年かかけてナガエを制御する戦略だ。